

●1Fホワイエ

◎2009こどもたちに 伝えたい 私の思い『チャイルドライン 夢メッセージ展 TOYAMA』

●とやまチャイルドライン愛ランド ●NPO法人チャイルドライン支援センター

●2Fホワイエ

◎「児童虐待防止月間」オレンジリボンキャンペーン●富山県

◎子どもの権利条約フォーラム●子どもの権利条約ネットワーク

◎子どもの権利条約を知ろう●子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま実行委員会

●3Fホワイエ

◎子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま紹介●子ども実行委員会

◎子どもの権利条約童話紹介●土遊野

◎子どもたちに広がる薬物汚染●富山ダルク(薬物依存症リハビリ施設)

◎「子どもの時にもっと遊びたかった」と後悔させない! ●NPO法人子ども遊ばせ隊(大人遊ばせ隊)

◎CAP(キャップ) 子どもへの暴力防止プログラムー子どもの人権が尊重され子どもへの暴力のない社会を目指してー●富山CAP

◎富山YMCA活動紹介●富山YMCA

◎そうだ! ほっとスマイルに行こう! ●NPO法人子どもの権利支援センターぱれっと

◎看護から捉える子どもの権利ー子どもの心理社会的発達ー●富山福祉短期大学 看護学科

◎活動紹介 DVの子どもへの影響●グループ女網〜ストップDVとやま〜

◎もう だれも いじめないで! ●もうひとりにはさせないよ! の会

◎みちくさの会●いしかわ「非行」と向き合う親たちの会【石川県】

◎小児がんの子どもたちのために●(財)がんの子供を守る会・富山支部

◎ヴァーチャーズ(心の力)・プロジェクト●ヴァーチャーズ・プロジェクト・ジャパン・福井支部【福井県】

◎紅茶の本屋さん●紅茶の時間【石川県】

◎子ども劇場の紹介●富山子ども劇場

◎働く子どもたちと子どもの権利条約●(特活)国際子ども権利センター(シーライツ)【大阪府】

◎東京シュレーの紹介と不登校の子どもたちの権利宣言◎東京シュレー【東京都】

●3Fホワイエ特設ステージ

◎子どもたち、あつまろうー! ジャンボ絵本の読み聞かせと紙芝居

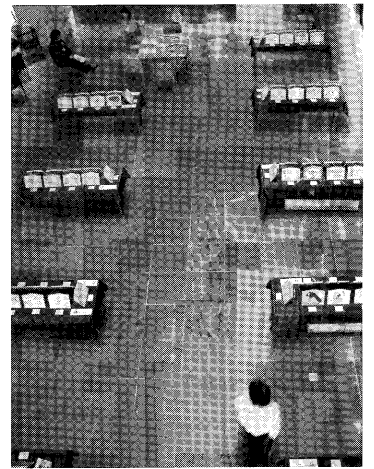
●とやまチャイルドライン愛ランド 協力:社会福祉法人 全国心身障害児福祉財団

◎「皿回し&コマ回し」とことん遊ぼう!! ●NPO法人子ども遊ばせ隊(大人遊ばせ隊)

◎看護から捉える子どもの権利●富山福祉短期大学

◎紙芝居●子ども実行委員会

◎ヴァーチャーズ(心の力)・プロジェクト・ワークショップ●ヴァーチャーズ・プロジェクト・ジャパン・福井支部【福井県】



とやまチャイルドライン愛ランド
NPO法人チャイルドライン支援センター



学生ボランティアへの説明



子ども実行委員会の紙芝居に見入る子どもたち



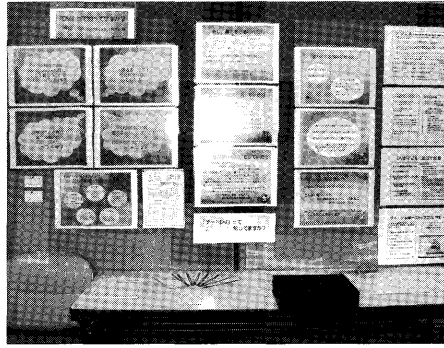
子ども実行委員会による紙芝居



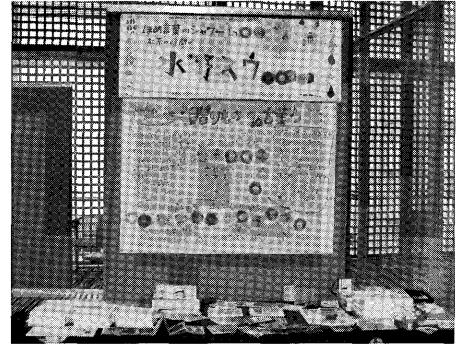
子どもの権利条約童話の読み語り 土遊野



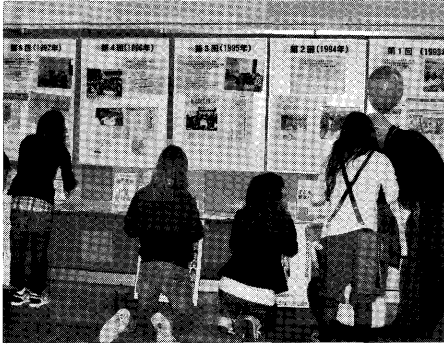
NPO法人子ども遊ばせ隊(大人遊ばせ隊)



グループ女網〜ストップDVとやま〜



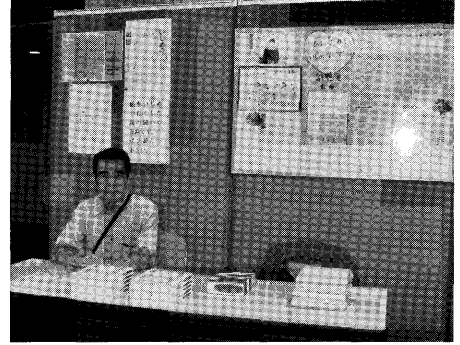
紅茶の時間【石川県】



子どもの権利条約ネットワーク



いしかわ「非行」と向き合う親たちの会【石川県】



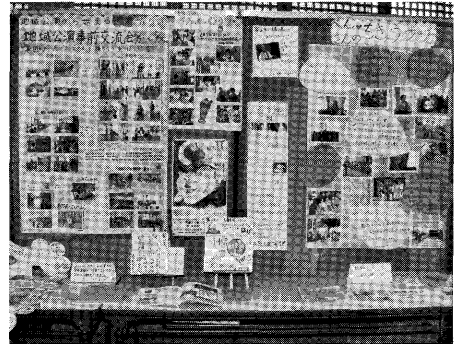
もうひとりにはさせない!の会



(財)がんの子供を守る会・富山支部



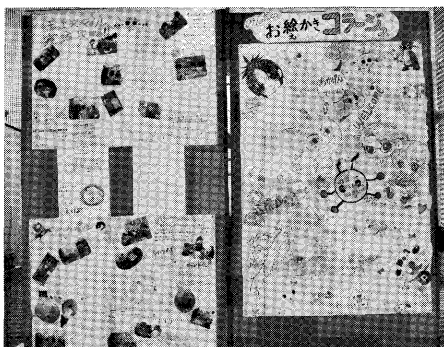
富山YMCAフリースクール



富山子ども劇場



ヴァーチャーズ・プロジェクト・ジャパン・福井支部【福井県】



NPO法人子どもの権利支援センターばれっと



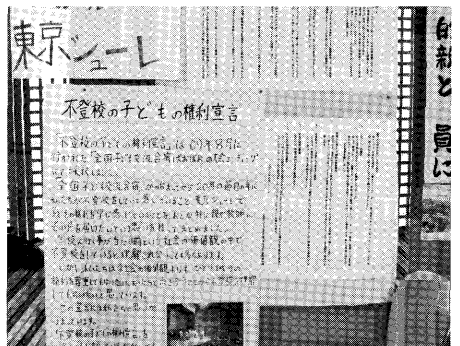
子ども実行委員会



富山福祉短期大学 看護学科



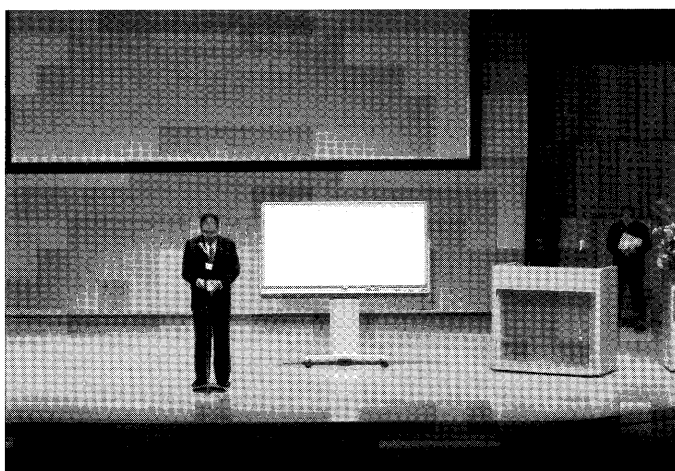
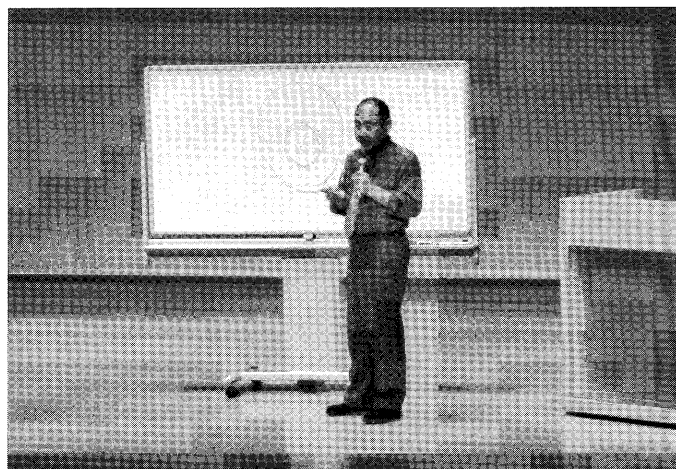
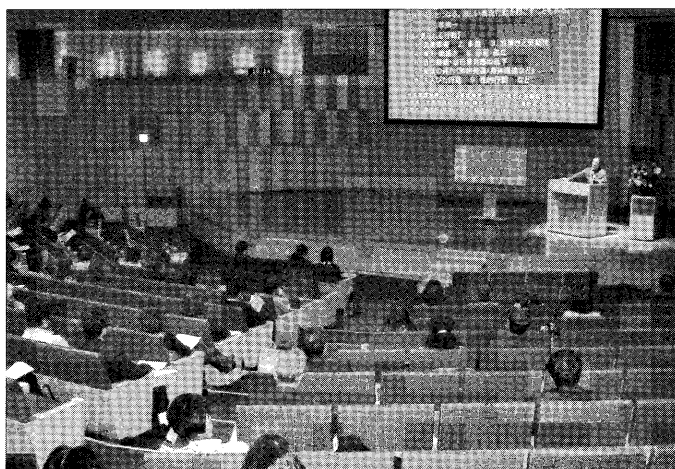
富山CAP



東京シュール【東京都】

第1分科会【あなたに会えてよかった ―社会的養護とこころの居場所―】

主催：富山県里親会



◆里親、児童養護施設等の職員や子ども、行政、児童福祉に関心ある方々等、合わせて112名という多数の参加者を得て、側垣一也氏の『子どもと家族に寄り添うために―社会的養育の視点から考える現代の課題―』と題する2時間近くの熱意溢れる講演に傾聴した。

講演の前半では、児童養護施設を通して見えてくる現代日本の子どもと家族の危機的な状況について提起された。子どもの施設入所理由を辿ってみると、戦後の孤児救済から、離婚、病気、犯罪等、親の問題へ移り、やがて不登校、情緒障害、家庭内暴力等子ども自身の問題へと変遷。そして現在は、ほとんどが児童虐待によるものとなり、問題が家庭の外から内にと変わっている。今や虐待は特別な家庭だけではなく、どんな子育て家庭でも起こりえるのだと。その要因として、現代の孤立した育児環境、子育て情報氾濫の中で、混乱し心身ともに疲弊した母親像を示され、社会あげての子育てママへの支援を訴えられた。また虐待を受けた子どもは心身ともに傷つき正常な発達が妨げられる。施設の生活の中で、その治癒にも当たられ、苦慮しておられた。

後半では、子どもの権利を大事にした施設での実践や、カ

ナダの施設との交流から学んだことなど、先進的な取り組みの数々を話してくださった。さらに、“子どもを支援するとは家族も一緒に支援することだ”と強調され、誠意を持って辛抱強く関わり続け父親の頑なな心を開いていった体験談には、会場はシーンとなって聴き入った。家族の自立に寄り添うには、保護者の苦しさへの共感を大切に、一緒に考えていくこと。自立とは他者の力をうまく借りて生活することが出来るようになることであり、そのための援助であると。

最後に、「支援者自身も苦しく、他からの支援なくして成し遂げられない」と、支援者同士の支え合い、協同の大切さを挙げられるとともに、「自分を好きになること」も大切であると“こげぱん”に託されたご自分の生き様を垣間見せられ、講演を結ばれた。

その後、フロアから質問、「子ども同士の喧嘩に大人は関わるべきか」に対し「無視してはいけない。うまく語れない子どもの気持ちを言葉で紡いでやるという役目を果たさなければならぬ」と話され、ここでも、子どもの権利を守ることに徹した子育てについての貴重な示唆を得ることが出来た。

第2分科会「子どもの権利条例」をつくろう

主催：ベアテさんの会／シャキット富山35／NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち



◆シンポジウム「子どもにやさしいまちづくり」

◎問題提起(要旨)：ベアテさんの会(伊藤冴子)

少子高齢社会にむけて子育て支援政策が議論されているが、大人が子どもを育てやすい社会よりも、子どもが自ら育ちやすい社会をつくるのが私たち大人の役割である。そのために、各自治体で実態に即した取り組みをすることが求められている。多くの自治体で、子どもと一緒に「子どもの権利条例」を制定していきたい。

◎討論：コーディネーター：土井由三(富山国際大学講師)

シンポジスト：荒牧重人(山梨学院大学教授、子どもの権利条約ネットワーク副代表)、稲葉茂樹(旧小杉町教育長)、佐々木穂(関西学院大学生、旧小杉町の子ども権利条例子どもワーク会メンバー)、山本英紀子(魚津市教育委員会次長)

〈土井〉今回のフォーラムで、子ども実行委員(公募で37名)が参加し、意見交換ができたことは、とても良かった。

〈稲葉〉小杉町子どもの権利条例の策定、実施に関わってきた。策定の主役は子どもであり町民だった。応募した町民と勉強会を開き、また子どもたちによる集会もあり感動した。

〈佐々木〉当時中学1年生だったが、子どもの権利条例について、子どもワーク会で学習し意見をいれてもらった。意見を言えたことが驚きだったし、意義のあることだった。子どものパワーを引き出すことが重要だと思う。

〈山本〉魚津市は平成18年条例を施行。市長部局が担当したが計画は教育委員会で策定。旧小杉町を参考にした。行政は住民に義務を課すことは得意だが、住民と共に計画を作りあげることはいままでの。職員の勉強会、策定した自治体への視察など、全庁的にすすめ4～5年かけて策定した。市内のアンケート調査や市民フォーラムを開いて理解を求めた。



〈荒牧〉子どもへの条件整備のための条例が必要。子育て支援、男女共同参画、子どもの権利条例をふくめて三位一体で進めなくてはならない。NPO、市民グループが関わらないと条例は生きていかない。現在、条例策定の自治体が少しずつ増えている。

〈土井〉条例策定後の具体的な展開について。

〈稲葉〉子どもの相談・救済・学習・自治集団の育成を目的に、「はっとスマイル」(公設民営)を開設した。子どもの悩み総合相談の「あんしんルーム」もスタートした。

〈山本〉民生部に子ども課を設置し、推進計画も。子ども会議を年1回開催している。

富山、旭川、諏訪、津、浜松など参加者から、活発な発言があった。最後にコーディネーターが、「このシンポジウムをきっかけに、高岡市をはじめ多くの自治体で制定に向け、話し合っていきましょう」と呼びかけて散会した。(敬称略)

参加者42名 主催：ベアテさんの会 協力：シャキット富山35／NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち